

# 地域医療連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)



## 総合診療科部長に就任して

総合診療科部長 うたがわ 雅楽川 あきら 聡

令和5年度から総合診療科が新設され、毎週月曜日の午前中に診療を開始しております。

当科では内科系・外科系の診療領域の垣根を越えた初期診療を行い、専門的な治療の継続が必要な場合当該診療科にバトンを繋ぐこととなります。緊急度・重症度が高ければ救急科と連携して救急初期診療を継続していくこととなります。非常に希な奇病を探し当てるといよりは患者さんや家族の訴えに耳を傾けて問題点を抽出し、疾病への解釈と治療の優先順位をお互いに整理（Re-map）することが総合診療科の特徴と言えます。

例えばさまざまな診療科を通院中の高齢者が転倒を契機に腰痛がひどくて食欲が低下してしまい元気が無いことを心配した家族と一緒に受診したとします。どの診療科を受診したらいいのか本人・家族は悩んでしまいます。医療スタッフもどの診療科を進めたらいいのか悩むでしょう。このような場合は、まずは総合診療科を受診していただき、病態を整理して当該診療科に引き継いでいくことが可能となります。情報と病態の整理（Re-map）には患者さんや家族とのコミュニケーションが重要で、まさにREMAPです。

R: Reframe the situation (状況を整理する)

E: Expect emotion respond empathetically (感情に共感する)

M: Map out important values (本人の大切な価値観を掘り下げる)

A: Align with the patient & family (患者さんや家族の意向に寄り添う)

P: Plan the treatment to uphold values (価値観に基づいた治療を計画する)

問診や診察には時間を要する場合がありますが、患者さんから受診して良かったと言ってもらえる診療科であり続けたいと思います。

## 救急科部長に就任して

### 救急科部長 古川 誠

平成27年1月に当センターに赴任し救急科科長として当センターの救急業務に従事してまいりましたが、令和5年4月から救急科部長を拝命いたしました。

当科は救急対応が必要な患者を診療する専門診療科として、常勤医2名（救急科専門医2名）と非常勤医師2名（金曜日のみ）の体制で、秋川流域の中核病院として日々発生する救急患者の診療を行っています。

突発的に発症する内因性疾患や不慮の事故などによる外因性疾患はもとより、世の中の動きはポストコロナへ向かい、人々の活動がコロナ前同様の活発な活動に戻りつつある中、地域の救急医療へのニーズも増えてくることが予測されます。

また、高齢化が進み慢性疾患の急性増悪も増えてきております。こういった患者への対応が我々に求められているものと考えております。さらに当科は地域救急隊の指導・教育も行っており、病院前から院内までのシームレスな救急対応を目指しております。

救急車搬送患者の受け入れがメインの業務となりますが、緊急対応が必要な患者がおりましたら、まずはお電話でお問い合わせください。お電話いただくことにより、患者情報の事前把握による受け入れ態勢の準備などを行うことができ、より迅速で安全な患者対応が可能となります。

また、緊急性が低い患者については地域医療連携センターをご活用いただき一般外来への受診をお願いいたします。当院は院内トリアージを行っており、一般外来を受診されても具合が悪い場合は救急外来で対応可能です。決して多くはない医師数で救急対応を行っており、救急患者が立て込んでいる場合はお待たせすることもございますので、救急外来を適正にご利用いただければ幸いです。

地域の救急医療を支えるためには、地域の先生方のご理解とご協力が不可欠です。これからも救急医療を通してより一層地域医療に貢献できるよう精進して参りますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



雅楽川部長が東京消防庁消防総監から長年消防学校講師を務めたことにより、消防行政協力章を受章しました。  
(令和5年3月24日) 写真右:根東院長